

子どもが願いをもつ算数の授業

加西市立北条東小学校
主幹教諭 國野大樹

1. はじめに・・・子どもが願いをもつ算数の授業

「願い」と言えば、七夕や初詣が思い浮かぶだろう。しかし、私は日々の算数の授業で「願い」を大事にし授業を組み立てる。ある子は「ぼくは算数の授業で、思いやりのある自分になりたい。」と願いをもち、別の子は「私は勇気のある自分になりたい。」と願いをもち、算数の授業で思いやりや勇気とはどういうことか、不思議に思われるかもしれない。しかし子どもが授業に生き生きと向かい授業を楽しむ姿を期待する時、是非とも子どもの「願い」に着目したいと考える。

これまで多くの子どもが願いをもち、願いに向かって授業の中で新たな自分を試し変わってきた。以下、子どもが願いをもつ算数の授業の実際を見ていきたい。

2. 取組の内容・方法

学期初めに、子どもの願いを把握する時間をもった。「あなたはどんな自分になりたいですか。」この問いにすぐに答える子どもはいない。今まで考えたことのない問いに子どもは戸惑う。学期初めの2週間、私は時間をかけて子どもと個別に面談を繰り返し、願いをもつことの素晴らしさや大切さを伝えた。これまで担任をした子どもが願いをもってどんなふうになったのかを話し、家庭訪問の機会を捉えて子どもの家庭での様子や保護者の願いを聞き取り、子どもの願いを一緒に決めた。こうした取組を経て、下記の【子どもの願い一覧表】が完成した。

【子どもの願い一覧表】

1	立ち向かう強い心(学習面) 正直な心('分らない'といえる 嘘をつかない)
2	人間不信の払拭 楽しい学校生活(お土産を1つ)
3	野球大好き 強いこだわり とりあえず本人にさせる、失敗、軌道修正へ(軌道修正しようとしている姿をほめる)
4	母親とのトラブル除去 「今、ココ、ぼく×すぐに動く」がテーマ 小さな変化に気づきほめる
5	サッカー大好き 勉強大嫌い(宿題面倒くさい) サッカーと学習を結び付ける
6	事務的 勉強大嫌い(時間がかかることが嫌) 将棋大好き 算数が一番嫌、国語が一番好き 国語係(一人)
7	人間関係能力・コミュニケーション力 自己表現(全体の場で)友達との関わり方 お米・野菜づくり(父・祖父)・動物物が大好き
8	算数の宿題をスムーズに 学校でのとりこぼし無し+算数の宿題ヒント お母さんを喜ばせよう
9	母親の不安除去 安心感 存在感をUP 挑戦する心(名前のごとく)
10	感情・自己表現 存在感UP・パトミントン
11	字をきれいに書く(連絡帳) お母さんを喜ばせる
12	勉強と遊びのバランス
13	家での変化を(手洗い、うがい、はし、水筒) 生きる意味・自暴自棄 存在不安からの解放 ほめて認めて抱きしめて
14	学習のやる気(ハードルを下げて) 友達づくり
15	家と学校の姿を一致(家ではずっとしゃべり聞いている)・ツイス(ダンス+歌)・スノーボー
16	楽しいお土産話を毎日に持ち帰る
17	ゲーム無縁の世界 大自然の中でひのびと
18	執着心からの解放(特定の友達を自分の思い通りにする)
19	豊かな生活体験・バランス(勉強は少々できなくても心豊かな子に) よく気がつく・頑張りすぎ 抱きしめる
20	寛容性(まあ、いいか)折り合い・許す心(自分+相手)
21	友達づくり
22	明るく(楽しく)特定のこだわりや癖をもちの解放
23	人間関係の改善 そのままの自分で(気を使わずに抱え込む傾向あり)
24	勇気 自信を付ける(学級代表)
25	勉強する意味 なぜ勉強するの? 宿題のスピードUP
26	登下校の課題克服(原因は不安、恐怖) 大丈夫感覚・安心感の育成

この表の完成後、私は授業の中で一人一人の子どもを見る角度を変えた。「勇気」を願いにもつ子どもには「勇気」を、「挑戦」を願いにもつ子どもには「挑戦」を軸に温かく見守った。そして見守る中でいいなと思った瞬間、言葉をかけた。「勇気ある行動だね。」「それが挑戦だよ。」私は子ども一人一人の願いにそった言葉を温かく笑顔で届け続けた。

これから記す3人の子どもは、家庭訪問で母親と話した際、新たな課題が見つかり、母親・子ども・教師の三者が共通理解をして「願い」を決め、算数の授業の中で「願い」の実現に向けてより良い改善の方向を探った事例である。

(1) A児の願い「すぐに動く自分になる」に対する取組の内容・方法

- ・ A児の課題...家ではすべてをやりっぱなしで後片付けをせずだらだらする。
- ・ A児の願い...やりっぱなしの習慣を改善し、すぐに動く自分になる。
- ・ 願いの実現に向けた算数の授業

家庭での生活変容を願ったA児に対し、私が決めたキーワードは、『今・ココ・自分・すぐに動く』であった。算数を得意とするA児の特徴を生かし、授業中、問題を解いた後すぐに動くようにさせた。その際、次の3つの選択肢を与え、自分で決めるように促した。ア)自分で新たな問題をつくる。イ)分からずに困っている子に教えに行く。ウ)先生の授業づくりの準備をする。A児はこの3つから、すぐに動く自分になる道を決め、授業の中で新たな自分づくりに取り組んだ。その後、学校ですぐに動くようになったA児を捉え、家庭生活の変容につなげた。

(2) B児の願い「生きる意味を感じる自分になる」に対する取組の内容・方法

- ・ B児の課題...生きる意味を感じず、自暴自棄で否定的な言動が目立つ。
- ・ B児の願い...生きていてよかったと心から感じる自分になる。
- ・ 願いの実現に向けた算数の授業

「俺って生きている意味あるの？」毎朝、私に語りかけてくるB児に対して、私は算数の授業の中で、B児を活躍させB児の存在価値を温めることを大事にした。授業中、友だちの発言や考えを否定しがちなB児を受容し、B児を意図的に発表指名し、その発言内容を大いに称賛した。その際、右の写真のような形で、B児の考えに共感する人に手を挙げさせ「きみは、みんなに大事に思われているね。みんなの目や手を見てごらん。」と言葉をかけて、B児と一緒にその場の温かい雰囲気を感じることを繰り返した。そして、黒板の前で書かせた場面もしばしばあった。その際にはみんなで拍手をし、「きみがいるから今日の授業も進んだよ。ありがとう。」と温かい言葉をかけて、B児の存在価値を丹念に温めた。



【B児の願いを叶える場面】

写真はB児とは違う子ども

(3) C児の願い「友だちをつくる自分になる」に対する取組の内容・方法

- ・ C児の課題...同じクラスに友だちがいなくてさみしい。
- ・ C児の願い...一日も早く友だちをつくり、楽しい学校生活を過ごす。
- ・ 願いの実現に向けた算数の授業

「算数の授業の中で友だちをつくらう。」こう呼びかけた私にC児は半信半疑であった。「先生、友だちづくりは休み時間や遊びでするものやで。」そんな素直な気持ちをぶつけるC児に対して、私は「算数の授業で友だちづくり」を願いにもたせ、5つの授業場面でC児の友だちづくりを応援した。以下、実際に試みた授業場面と、教師の具体的な手立て・言葉かけを表に整理してまとめている。

授業場面	教師の具体的な手立て・言葉かけ
自力解決の場面	・「ねえねえ、ここどうなった？」と近くの子に自分から話しかけてごらん。1つの授業で1回はしようね。
困った子に教える場面	・友だちになりたいなと思う子の所へ行って、○番の問題についていっぱいお話しておいでね。
発表の相互指名の場面	・友だちになりたいなと思う子を当ててごらん。 ・友だちになりたい子が発表したら進んで立ち、「発表します。」とつなげて発表してごらん。
グループ活動の場面	・今から2人(3人)グループで○番の問題を解決するよ。Cさん、友だちになりたい子の所へ行ってグループを作ってごらん。
ふり返りの場面	・ふり返りでは、今日の算数でこの子と問題を解決して、友だちになれたよと思う子の名前を入れて書くのだよ。

3. 取組の成果

(1) A児の願いに対する取組の成果

A児がすぐに動いたのは、3つの選択肢のうち、「分からずに困っている子に教えに行く」であった。算数を得意とするA児にとって、分からず困っている子を助けるのはお手の物であった。「ありがとう、Aさん。」「Aさんのおかげで、分かりました。」クラスのみんなからもらう感謝の言葉はA児の学習意欲を大いに刺激した。A児はさらに動きのスピードを加速させ、「ぼくは滝のような勢いですぐに動く人になりたい。」と願いのステージを上げ、水を得た魚のように算数の授業で活躍を続けた。そして約1か月後、学校での活躍を家庭での生活変容につなげた。やりっぱなしだったA児は、学校同様、すぐに動くA児、滝のように勢いよく動くA児に変わっていった。A児の母親からは連絡帳でこんなコメントが届いた。「先生、Aですが、すぐに動いています。おかしのゴミもすぐに捨てるし、服の脱ぎっぱなしもなくなりました。驚いています。」2月20日、A児のキャリアノートには、自分のよいところとして、「ぼくは、滝のように行動する所です!」と書き記し、願いを確かな自信につなげて成長していったのである。

★自分のよいところは、どんなところですか

「ぼくは、滝のように行動する所です!」

【A児のキャリアノート】

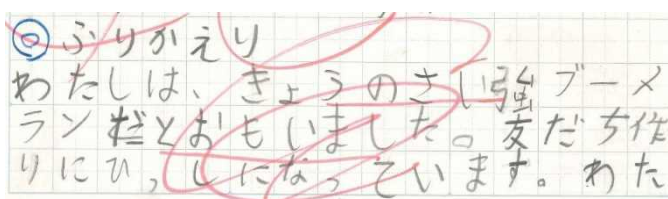
(2) B児の願いに対する取組の成果

算数の授業の中で、来る日も来る日もB児の存在価値を温める取組を続けるうちに、徐々に授業中の必要のない否定的なつぶやきが減っていった。何よりも変化があったのは、B児をめぐる生徒指導事案の激減であった。これまでは、友だちへの暴言などが毎日のようにあったが、願いの取組をはじめてから数か月ほどして、ピタッとおさまった。さらにうれしい変化は家庭でも起きた。それまで母親や妹との喧嘩が絶えなかったB児であった

が、「喧嘩も減り、母親や妹にも優しくなった。」と、母親が何かの折にした電話で報告をしてくれた。そして、「自宅へ帰ったらせめて箸箱と水筒を台所に置いてほしい。」と願う母親の思いを察知し、B児は帰ったらすぐに箸箱と水筒を台所へ出すように変わった。

(3) C児の願いに対する取組の成果

算数の授業で友だちづくりに着手したC児は、6月14日の算数の授業のふり返りでこう書いている。「わたしは、友だち作りにひっしになっています。」このように、算数の毎時間は、C児にとって友だちをつくる大切な時間になった。



【C児の算数ノートのふり返り】

これまで人の良くない所やできていない所に目を向けがちだったが、友だちの良い所やがんばっている所に目を向ける意識が育ち始めたと自分自身の成長を捉えた。7月13日、キャリアノートの保護者欄には、母親のこんなコメントが寄せられた。「3年生になって、もりもり何毎にもがんばる「力」が全開になっています。お手伝い、勉強、苦手な走る事にもファイトをもってやってパワー全開!!」C児は、算数の授業の中で、友だちづくりの願いを叶え、あらゆる分野に積極的に挑戦する、そんな子どもに変わっていった。

それから約1か月して、C児に聞いてみた。するとC児は「友だち?もう大丈夫やで。」とさりりと一言。さらに詳しく聞くと、授業の中で友だちをつくることで、何よりも学校が楽しくなってきたと言った。そして、

【おうちの人から】
3年生になって、もりもり何事にもがんばる「力」が全開になっています。お手伝い、勉強、苦手な走る事にもファイトをもってやってパワー全開!!
先生のご指導のたまものです、感謝です。ありがとうございます。

【キャリアノート(保護者コメント)】

4. 課題及び今後の取組の方向

人気歌手グループAKB48の名曲に「365日の紙飛行機」という歌がある。誰もがメロディーを聴けば、「あの曲ね!」と笑顔がこぼれる歌である。その中にこんな歌詞の一節がある。『人生は紙飛行機 願い乗せて飛んで行くよ 風の中を力の限り ただ進むだけ その距離を競うより どう飛んだか どこを飛んだのか それが一番大切なんだ さあ心のままに 365日』。作詞は秋元康さんであるが、この一節に私が本稿で主張したかった多くが含まれている。

私たち教師は、子どもの教育の中で「できたか・できていないか」という結果に目を向けがちになる。しかし大事なのは、秋元さんが言われる通り「どう飛んだか、どこを飛んだのか」という途中のプロセスである。子どもが、目標や夢に向かってやろうとしている姿、やっている姿、その一瞬一瞬を温かく見守り、「やっているね。」「それでいいよ。」「その調子。」と言葉をかけたいためである。最後になったが、これまで未熟な私を教え導き支え励まして下さった全ての先生方、授業を通して大切な全てを教えてくれた一人一人の子どもたちに心から感謝をし、本稿を閉じたいと思う。